

VA/VE文献リストの分布状況・分析結果 [第6報]

[自営] MIHY技術コンサルタント 増田 勝一CVS

今回提供した「VA/VE参考文献リスト [改訂増補版：第6報]」について、その分布状況・分析結果は、下表のとおりであった。

整理区分 ファイル区分	1990年 以前	1991- 2010年	2011年 以降	全期間 合計
A. VA/VE	56 [0]	51 [0]	36 [14] ↓	143 [14]
B. 創造技法など	35 [1]	109 [16] ↑	187 [112] ↑	331 [129]
C. 設計工学など	39 [0]	116 [1] ↑	117 [21]	272 [22]
D. 設計管理など	49 [0]	134 [11] ↑	168 [45]	351 [56]
E. 人間中心設計	8 [0]	119 [7] ↑	212 [99] ↑	339 [106]
F. 商品企画など	38 [1]	136 [10] ↑	215 [114] ↑	389 [125]
A-F: 小計 (その比率)	225 [2] (12%)	665 [45] (37%)	935 [405] (51%)	1825 [452] (100%)
G. コストダウン	74 [0]	121 [14] ↑	31 [11] ↓	226 [25]
H. カイゼンなど	44 [0]	170 [10] ↑	172 [53]	386 [63]
I. 問題解決など	10 [0]	152 [44] ↑	236 [133] ↑	398 [177]
J. ライフサイクル	29 [0]	153 [2] ↑	218 [51] ↑	400 [53]
K. 業務改善など	5 [0]	90 [4] ↑	305 [166] ↑	400 [170]
L. 経営工学など	102 [1]	166 [16] ↑	139 [37]	407 [54]
M. 経営改革など	3 [0]	52 [6] ↑	256 [173] ↑	311 [179]
G-M: 小計 (その比率)	267 [1] (11%)	904 [96] (36%)	1357 [624] (53%)	2528 [721] (100%)
N. 原価管理など	64 [0]	134 [7] ↑	83 [23] ↓	281 [30]
O. 原価企画など	18 [0]	62 [3] ↑	41 [9] ↓	121 [12]
P. 管理会計など	35 [0]	137 [6] ↑	160 [56]	332 [62]
N-P: 小計 (その比率)	117 [0] (16%)	333 [16] (45%)	284 [88] (39%)	734 [104] (100%)
Q. ビジネスモデル	10 [1]	105 [16] ↑	275 [173] ↑	390 [190]
R. イノベーション	10 [4]	84 [19] ↑	311 [215] ↑	405 [238]
P-Q: 小計 (その比率)	20 [5] (2%)	189 [35] (24%)	586 [388] (74%)	795 [428] (100%)
総合計 (その比率)	629 [8] (11%)	2091 [192] (35%)	3162 [1505] (54%)	★5,882 [1,705]

ただし、黒数字は一般書籍（文庫本を含む）の冊数、カッコ付き赤数字は「※電子版あり（※電子版ありを含む）」の冊数とした。※電子版の比率： $[1,705] \div 5,882 \times 100 = 29.0\%$

そこで、この分布状況・分析結果について、次のとおり私見を述べてみたい。

1) VA/VE・IE・QCなど管理技術(管理技法)の書籍発行が激減している。

筆者が以前に提唱した『**固魂管才**(固有技術『機械・電気・建築』をベースに管理技術を習得しよう)』は、既に陳腐化して衰退したのかな!※管理技術の伝承は十分に行われているのか疑問を感じる。

2) 技術ノウハウを記載した『〇〇設計』など固有技術の書籍発行が増加している。

筆者の現役時代はこの種の書籍発行が少なく苦勞したが、近頃は各種の設計技術を記載した書籍が豊富に発行されていて、新人技術への固有技術の伝承と社内教育研修に大いに役立つ。

3) 『ビジネスモデル』『イノベーション』など新しい分野の書籍発行が急激に増加している。

筆者が近年提案した『**管魂創才**(固有技術・管理技術をベースに創造技術を習得しよう)』に、移行しつつあるかなあ!※VA/VEもこれらとの融合を図るべきではないかとも思った。

4) 『働き方改革』『デジタル変革(DX)』などオフィス業務の書籍発行が急激に増加している。

筆者の現役時代はソフトVA/VEの対象が『間接経費の削減(コストダウン)』主体で、まずは間接部門のコスト意識を変えるのに苦勞したことを思い出す。その当時「オフィス・オートメーション(OA)」の用語が出現したが、コトバだけが先行してオフィス業務の効率化にまでは至らなかった。

※「ホワイトカラー(技術者)とは、最初に『出来ない理由』を言う人種である。」と言った人がいた。

ビジネスマン(仕事人)なら、最初に『こうすれば出来る条件(理由)』を言ってほしいものです。

※「オフィス(事務所)は「会津・磐梯山」、要するに『^{たから}宝の^{やま}山』ですよ。」と言った人もいた。

直近は「トランスフォーメーション(DX)」の用語が流行しているが、これらの潮流によって本当にオフィス業務の生産性向上(効率化)が図られるかどうか注目して見ていきたい。

なお、これまでに調査・提供した文献リストの※**電子版**の比率は、次のとおりであった。

第1報	2017年11月:	[225] ÷ 1, 921 × 100 = 11.7%
第2報	2018年5月:	[375] ÷ 2, 480 × 100 = 15.1%
第3報	2019年1月:	[529] ÷ 2, 962 × 100 = 17.9%
第4報	2019年12月:	[854] ÷ 3, 784 × 100 = 22.6%
第5報	2020年10月:	[1, 205] ÷ 4, 669 × 100 = 25.8%
第6報	2021年9月:	[1, 705] ÷ 5, 882 × 100 = 29.0%

(注1) VE越世意「『固魂管才』から『管魂創才』へ」増田勝一執筆

バリュー・エンジニアリング(日本VE協会会報)NO. 157, 1993. 7

(注2) 「管理技術と創造技術との融合=管魂創才」増田勝一執筆論文

日本創造学会第14回研究大会(豊橋)論文集、1992年12月発表

以上